

市民生活に密着した健康拠点 ~高度な専門性を有しながらも、市民に寄り添う保健所~

- 1 明快な施設構成** 多様な利用者属性に配慮したゾーニング・動線・セキュリティ・プライバシー
- 2 業務全体のDX化に対応** ワタシ業務や場所を限定しない働き方に対応する施設・システム
- 3 徹底した感染・汚染防止** ゾーニング・動線・建材・設備によるフェーズフリーの対策
- 4 緑豊かな健康発信拠点** 緑地を生かした、健康づくりや動物愛護の情報発信・交流拠点



大きな庇で市民を迎える開かれた保健所のイメージ

課題テーマ① 質の高い総合的な保健衛生サービスを提供できる親しみやすい施設

総合的な保健衛生サービスの円滑な業務運営が可能となる施設

1 シンプルで明快な施設構成

- 1 フロア用途が明確な3階建て**：業務の効率性・連携性・専門性・セキュリティ性を高めます。
- 2 スムーズに案内できる空間構成**：施設南側を執務室、北側を事業・会議室、その間を待合・動線とした、来所者に分かりやすい空間とします。
- 3 フェーズフリーの事業・会議スペース**：事業室と会議室はゾーンを集約し、スライディングウォールで一体化と分割ができる設えとします。会議・講習・交流会・イベントなど多目的に利用でき、有事スペースとしても転用しやすい計画とします。
- 4 心理的安全性のある職場環境**：窓口から執務机までの距離感の確保や来所者に見られない休憩スペースの整備など、職員が安心して専門性を発揮できる空間づくりを行います。
- 5 市民とのつながりの創出**：市民や事業者向けのイベントや展示などができるイベント広場・多目的室をアプローチに面して整備します。

現在のままならず将来にわたってデジタル技術等の進展や保健所機能の変化に対応可能な、使い続けられる施設

2 建築ハード+情報・システムのアダプタビリティの確保

間仕切り・設え・動き方の自由度を高める施設の骨格

- フレキシブルな執務空間**：両端コアと大スパンの柱割りにより、広く整形な空間を確保します。
- スケルトン(構造)・インフラ(設備)・インフィル(内装)の分離**：新築時から変わらない構造と時代のニーズで変化する内装・設備を明確に分け、改修・更新がしやすいつくりとします。
- 業務システムの無線化**：ネット・電話・電源等を無線化し、レイアウト変更のしやすさや、職員が業務に最適な場所を選んで働くABWに対応します。

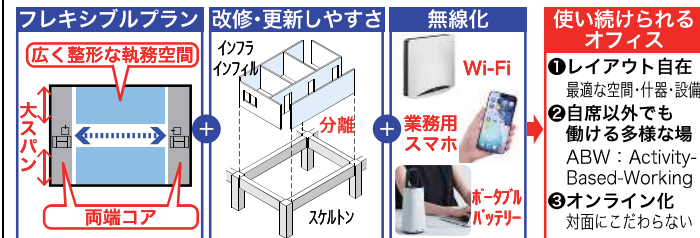


図 1-1：使い続けられる施設とするための基本的な骨格

将来の対応を容易とする新築時の整備内容

- 将来の技術導入時の対応では、費用や技術面の制約が生じる事項は、新築時に整備します。

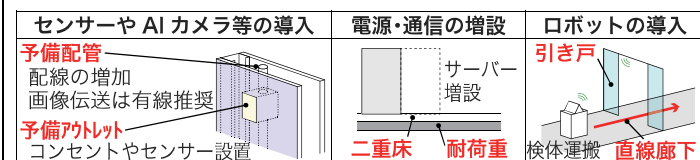


図 1-2：将来の導入技術の例と新築時の対応

窓口機能、事務所機能のみでなく、検査室、動物愛護センターを含めて動線に配慮した諸室配置や施設配置、7/10+外構計画

3 健康ストリートに沿った施設配置と動線計画

- 歩行者入口を最寄りのバス停に近い東側に設置し、車両入口は歩車分離を図る西側とします。
- 駐車場を北側に集約し、建物を南側に寄せ、並木通りに開かれた施設づくりを行います。
- 歩行者入口から保健所・動物愛護センターを一直線の健康ストリートでつなぎ、駐車場からのアクセスや施設間の移動利便性に配慮します。
- ストリートと待合の交点に受付や階段・EVを設置し、移動・案内の分かりやすさに配慮します。
- 庁舎の南北に大庇を設置し、車いす駐車場・ところバス・検診バス等の寄付きに配慮します。
- 必要な緑地を東側に集約し、散歩コースや健康遊具を設置した健康づくりスペースとして整備します。(生涯学習センター利用者も利用しやすい)
- 建物北西に職員通用口を設け、来所者動線と通勤・搬入動線を分離します。
- 3階は検査フロアとし、検体持ち込み業者や感染症検査受検者の移動範囲を最小限とします。

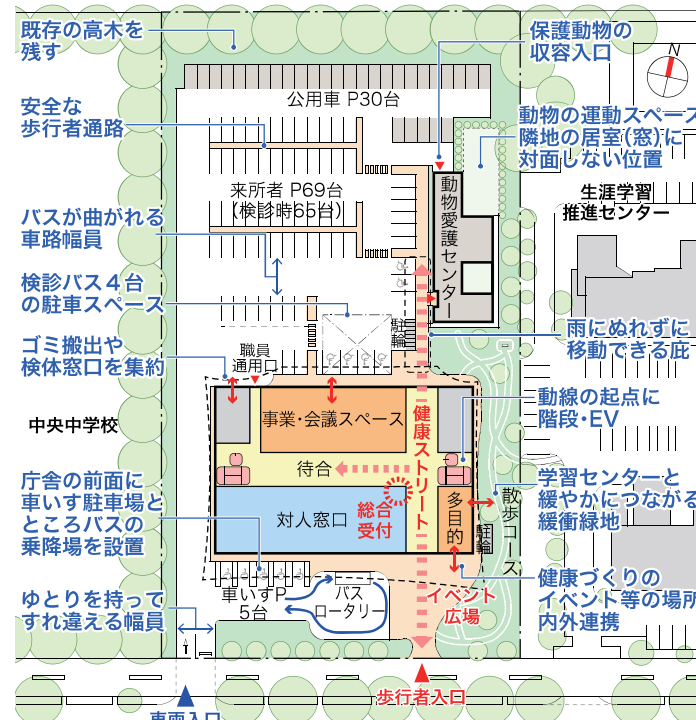


図 1-3：配置計画



図 1-4：フロア構成計画

4 多様な相談/業務に対応する空間づくり

相談/応対しやすいワンストップ窓口

- 来所者の動線の起点に受付を設け、案内しやすい窓口空間とします。
- 応対職員の交代時に横移動しやすい窓口廻りのレイアウトとします。
- 窓口番号と対応した待ち時間表示機能付き案内システムとデジタルサイネージを導入し、来所者の待機ストレスを軽減します。
- 相談内容や相談者特性(病状・障害)に応じたカウンターや相談室を計画し、市民のニーズに柔軟に対応できる窓口空間を整備します。



図 1-5：相談内容に応じた設えのワンストップ窓口

快適で安心感のある空間づくり

- 吹抜とトップライトにより、待合に採光と通風を確保します。
- 内装やカウンターの木質化により、温かみがあり安心して相談できる空間づくりを行います。

部署連携や多様な働き方に対応する執務空間

- 窓口空間と執務空間を収納什器で区切り、来所者の目と耳を気にせず働けるワークスペースを計画します。
- 部署人数の増減や組織変更、グループアドレスに対応しやすいユニバーサルレイアウトを導入します。
- 窓側にABWゾーンを設け、打合せやweb会議、集中作業など、多様なワークスタイルに対応します。

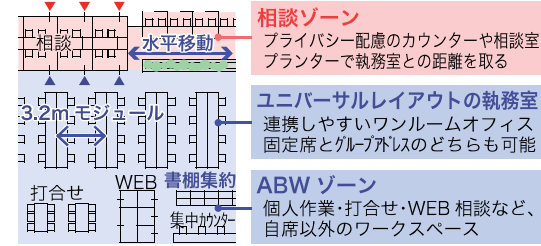
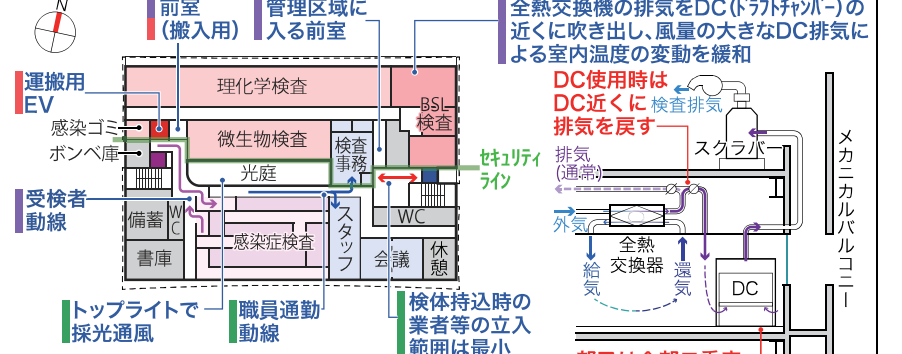


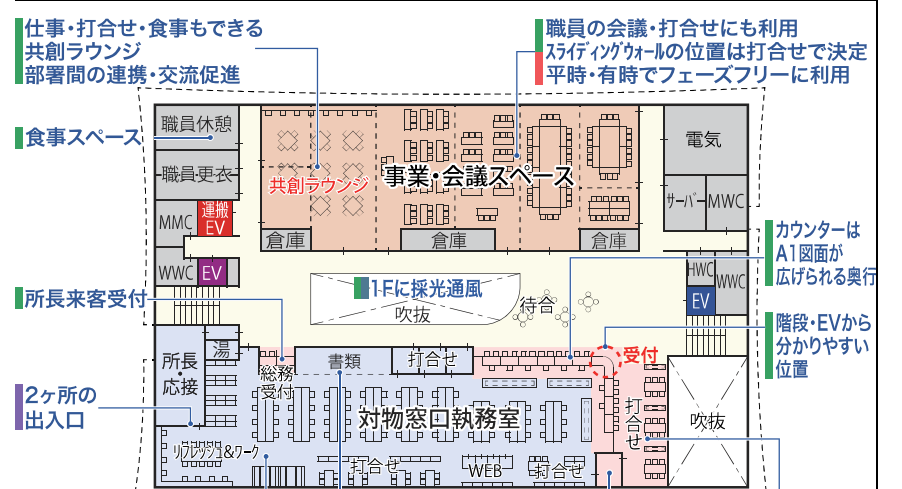
図 1-6：働きやすい執務室の構成

- 来所者の目につかない場所に、職員の共創ラウンジ(2階)を設け、打合せ・食事・リフレッシュなど創造的なワークスペースとします。
- 3階検査フロアは、フロア内かつセキュリティゾーン外に会議室・休憩室を設け、職員の利便性に配慮します。

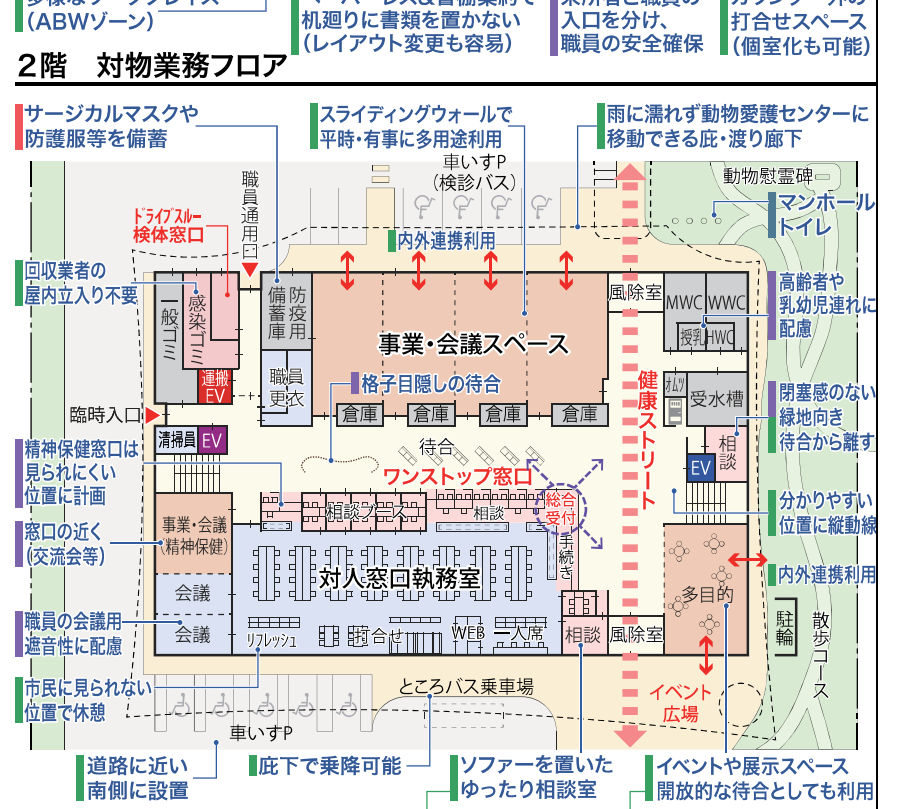
課題テーマ②~④共通



3階 検査フロア



2階 対物業務フロア



1階 対人業務フロア

平面計画に示した諸室は提案時の想定のため、業務での打合せで条件が変更になることを前提としています。その場合でも提案の考え方を生かし、条件を調整したプランを提示します。

課題テーマ② 健康危機に柔軟に対応できる施設

災害時や新興感染症の流行等の有事において、保健活動の拠点として人員増、組織変更、業務変更に対応でき、円滑な業務継続が可能な施設

1 有事の拡張スペースの確保 2 感染性検体の専用運搬ルートの確保

- 1 有事には、1階に対人・対物の通常業務を集約し、2・3階に感染対策機能を集約できる計画とします。
- 2 1階執務室に隣接して会議室を設置し、業務集約時のソーシャルディスタンスを確保します。
- 3 2階の事業・会議スペースはスライディングウォールで部屋の大きさを変え、コールセンターや応援職員の詰所、職員の仮眠休憩スペース等の設置場所とします。
- 4 円滑な業務継続のため、同スペースには有線・無線を問わず、必要な設備を整備します。
- 5 PCR検査等の検体を車に乗ったまま提出できるドライブスルー検体窓口を設置します。
- 6 運搬用EVを近接設置し、3階検査ゾーンの前室に直送し、感染性物質の搬送動線を他のスペースから切り離します。
- 7 感染性物質を扱う職員の入口も検体窓口隣接する通用口に限定し、一般職員用に西側に臨時入口を設けます。
- 8 その他のEV・階段は3階への停止・誤進入を防止するセキュリティ設定とし、検査フロアの独立性を確保します。

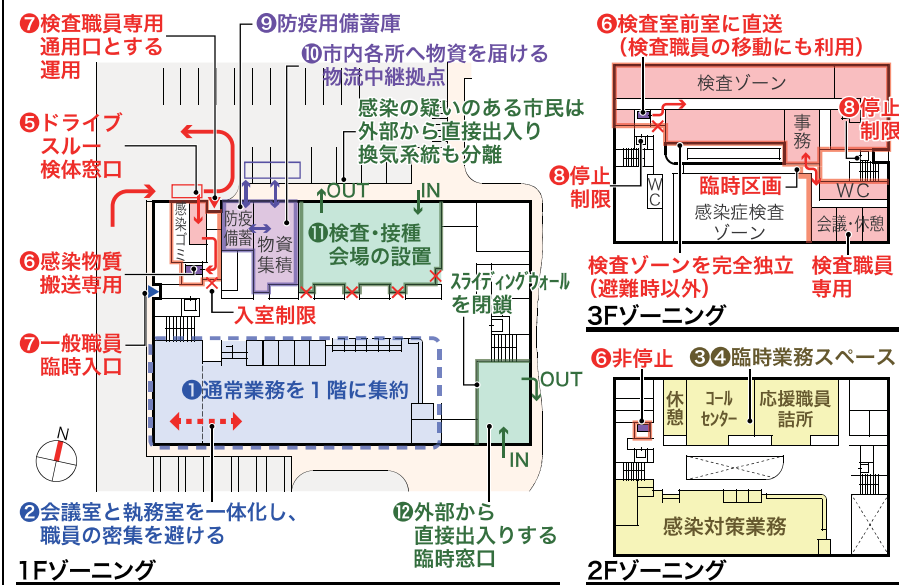


図2-1: 有事の際の施設利用計画

3 防疫物流の拠点化への対応 4 市民対応ゾーンの限定

- 9 防災備蓄庫の他に、防護服やサージカルマスク等の防疫品備蓄庫を設置します。
- 10 事業・会議スペースと隣接し、外部から直接搬出入できる扉を設けることで、有事の際に防疫品・医薬品を市内各所に届ける物流中継拠点とします。
- 11 1階事業・会議スペースを流行初期の検査・接種会場や蔓延期の検診会場とする場合は、外部から直接出入りし、職員との接触を最小限とします。
- 12 対面相談を実施する際は、1階多目的室を臨時窓口とし、外部から直接出入りします。

課題テーマ③ 誰もが安心・安全に利用できる施設

検査室について微生物検査及び理化学検査のいずれにおいても利用者及び周辺環境並びに職員にとって安全性が高い施設 / 動線や設備配置の工夫により業務効率性が高い施設

1 明快なセキュリティラインを設定したフロア計画

万全の入室セキュリティ

- 試験検査ゾーンを一般来所者の来ない3階に集約し、職員は検査事務室又は前室経由でゾーンに入る動線とします。
- 外来者の検体提出や業者による検査用ガスボンベ交換は共用部から行き、部外者の立入りが不要とします。
- 出入口扉に顔認証システムを設置し、確実・非接触の入室管理を行います。

汚染の拡散防止対策

- 検査排気は、スクリーンやHEPAフィルター等で無害化し、安全に大気へ放出します。
- BSL検査室は前室を設置し、陰圧の換気バランスとし、封じ込めを行います。
- 緊急シャワーを各検査室の中央付近に設置し、万が一の事故に備えます。

業務効率の良い施設計画

- 種類毎に検査室をまとめるとともに、空間の直接移動扉を適宜計画し、検査業務の効率を高めます。
- 試験検査ゾーン内の通路は直線廊下とし、移動や機器搬入、避難時の安全に配慮します。

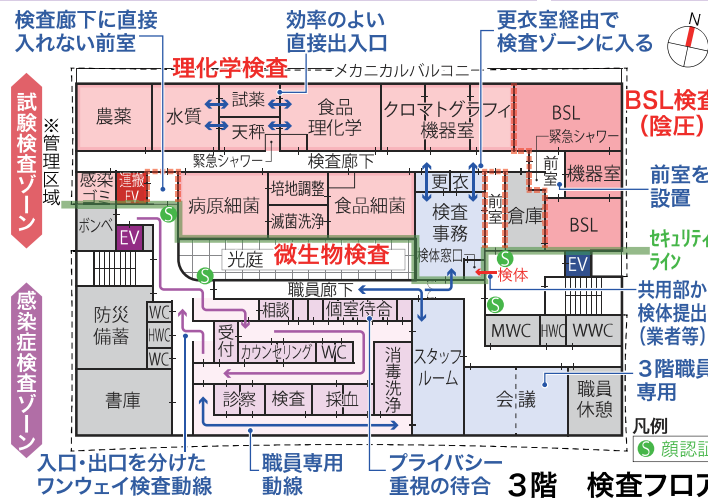


図3-1: 検査・検診のプライバシー配慮



図3-2: 窓口相談のプライバシーの工夫

3 動物のストレス軽減と周辺への環境配慮の両立

周辺環境に配慮した防臭・防音対策

- 中学校から離れた東側に配置し、犬舎と運動スペースは生涯学習センター建物より北側に設置し、臭い・鳴き声の伝達に配慮します。
- 犬舎・猫舎の開口を隣地に向けない計画とします。
- 室内にプラズマ脱臭装置等の設置や活性炭フィルター付き排気ダクト、消臭機能性内装材など、防臭・消臭対策を行います。

収容～譲渡・返還までの安全な環境

- 感染対策、保護、出会いのゾーン区分が明確な平面計画とし、飼養管理と衛生管理のしやすさに配慮します。
- ゾーン間の管理扉や掘り込み防止フェンスなど、脱走防止を図ります。

動物福祉に配慮した快適な環境

- 犬舎・猫舎・隔離室は、駐車場から離れた東側に設置します。
- 採光通風を確保し、自然のリズムでの飼養環境とします。
- ストレス予防の広い運動スペースと猫の室内遊び場を計画します。
- 譲渡時の対面室は、リビングのような自然な設えとします。

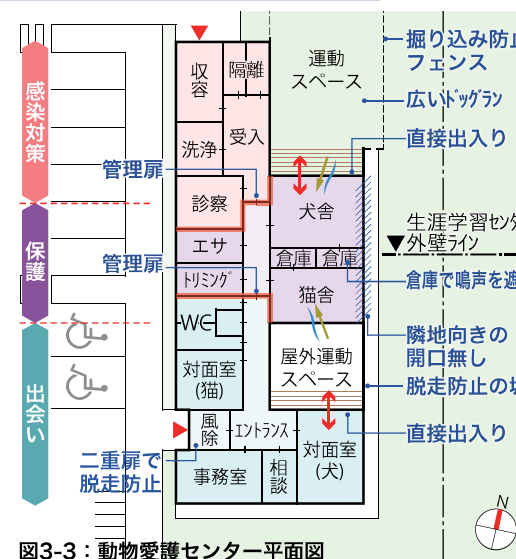


図3-3: 動物愛護センター平面図

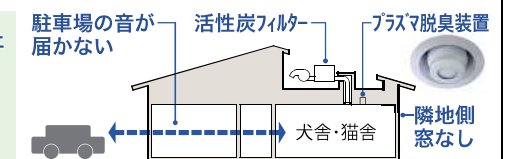


図3-4: 臭い・鳴き声に配慮した施設計画

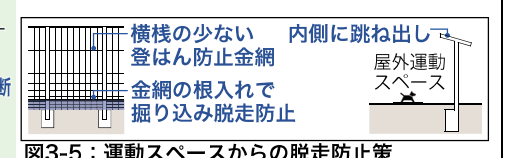


図3-5: 運動スペースからの脱走防止策



図3-6: ドッグラン 図3-7: キャットタワー 図3-8: 対面室イメージ

課題テーマ④ 基本計画等を踏まえた自由提案

1 施設の防災性の向上

- バランスの良い構造架構計画により、耐震性を向上します。
- 軒の深い庇を設け、暴風時の飛来物から建物を守ります。
- 天井の耐震化・軽量化により地震時の天井落下を防止し、業務スペースを確保します。
- 試験機器や危険物保管棚の転倒防止を図ります。



図4-1: 耐震天井

2 インフラのバックアップ



図4-2: 各インフラのバックアップ対策

3 施設内感染の防止対策

- 吹抜トップライトにより風通しを高めるとともに、換気量30m³/人・hを確保します。
- 入口扉を設けない非接触型トイレットプランや自動ドア・EVのボタン・水栓などの非接触型を検討し、高頻度接触表面（ハイタッチサーフェス）を削減します。
- 人の手の触れる部位には、SIAAマークを取得した抗ウイルス建材を採用します。

4 ZEB ReadyとCASBEEウェルネスオフィス Sランクの取得で、快適なワークプレイスを実現

ZEB Ready実現方策



図4-3: 断面イメージ

CASBEEウェルネスオフィス Sランク実現方策

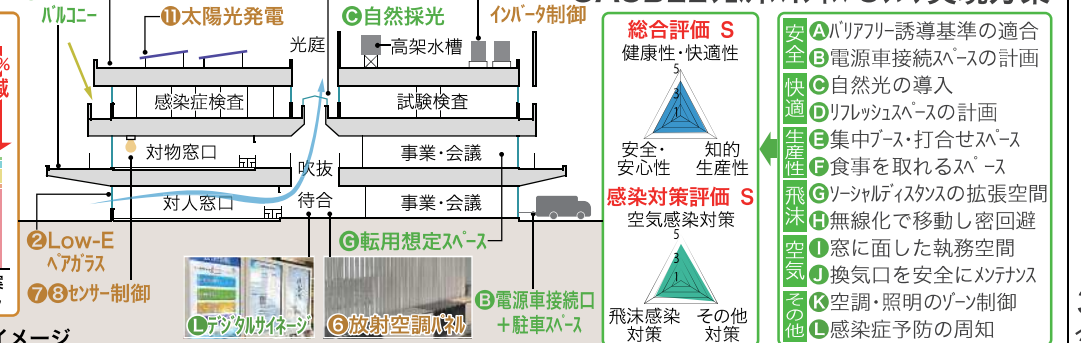


図4-4: CASBEEウェルネスオフィス Sランク実現方策